

学部4回生・大学院生のための フルテキスト入手法

卒論・研究きちんとスタート！シリーズ②

2026.6 大阪大学総合図書館 学習・調査支援担当（参考調査カウンター）

皆さんこんにちは。

e-learning教材「学部4回生・大学院生のためのフルテキスト入手法」をご覧ください、ありがとうございます。

この講習会では、大阪大学の図書館サービスに焦点を当てて、学术论文のフルテキスト（本文の全文）を入手する方法を解説します。

タイトルには「学部4回生・大学院生のための」とありますが、それ以外の方々にも、大阪大学の図書館サービスについてあらためて知っていただくうえで役に立つ内容となっております。

「卒論・研究きちんとスタート！」 シリーズのラインナップ

①学部4回生・大学院生のための日本語文献探索のキソ
必要と思われる文献の書誌情報を得る

②学部4回生・大学院生のためのフルテキスト入手法
得た書誌情報をもとに実際に論文を入手する



[図書館Webサイト](#)にてe-learning教材を公開中！



2

本シリーズ「卒論・研究きちんとスタート」は2つの講習会から構成されており、それぞれ文献情報を探すプロセスと、実際にその文献を入手するプロセスを扱います。

「学部4回生・大学院生のための日本語文献探索のキソ」講習会では、論文の検索を行い、自分にとって必要と思われる文献の書誌情報（論文のタイトル、著者名、雑誌名といった、文献を特定するための情報のこと）を得る方法を学びます。
主に人文・社会科学系の方向けの内容となっています。

現在お読みいただいている「学部4回生・大学院生のためのフルテキスト入手法」講習会では、文献の書誌情報やデータベースでの検索結果をもとにして、論文のフルテキストを入手するために利用できる方法を解説します。

いずれの講習会も、図書館のWebサイトにてe-learning教材を公開中ですので、ぜひご覧ください。

<https://www.library.osaka-u.ac.jp/research/literacy/>

本講習会の目標

学習目標：

大阪大学の環境（＝阪大の所蔵資料や契約データベース）で論文フルテキスト（＝本文全文）を入手する方法を理解し、必要な論文を入手することができる



3

この講習の目標は、大阪大学の環境で論文フルテキストを入手する方法を理解し、必要な論文を入手できるようになることです。
大阪大学の環境とは、大阪大学で利用可能な資料やデータベース、その他の図書館サービスを指します。

大阪大学の図書館サービスや図書館資源を使いこなして、論文を効率的に入手することができるようになります。

文献データベースの役割

※「日本語文献探索」講習会のスライドから転記

文献データベースの本来の役割

文献情報（書誌情報）の検索・整理

関連文献の発見

PDFや全文閲覧は付加的な機能

PDFや全文へのリンクは、提供できる範囲に限られる

PDFが表示されなくても利用できる場合がある

PDFの有無だけで文献の重要性は判断できない

よくある誤解

PDFが表示されない = 読めない ではない

PDFが表示される = 重要な文献 でもない

先行研究調査の第一段階は、重要な文献を漏れなく見つけること。
そのために、「検索」と「入手」を分けて考えましょう。



4

（このスライドは、「日本語文献探索のキソ」講習会の教材から転記したものです。）

なお、文献の探索と入手は、異なる作業として区別した方が見通しが良くなります。

文献データベースを使うとき、「PDFファイルなどで本文が見られるかどうか」に注目してしまう人が少なくありません。

しかし、文献データベースの本来の役割は本文の提供ではなく、研究テーマに関連する文献の書誌情報の検索や、関連文献の発見にあります。

文献データベースによっては全文へのリンクが表示されますが、あくまでもそれは付加的な機能です。たとえば、代表的な文献データベースである「Scopus」や「Web of Science」には、そもそも文献の本文は収録されていません。これらのデータベースは、本文を提供することではなく、書誌情報や引用情報を提供することを主な目的としたものだからです。

もちろん、文献データベースに本文が登録されていないからといって、その文献が読めないわけではありません。その文献が図書館で所蔵されていたり、文献複写サービスで入手することができたりする場合があります。

先行研究調査でまず大切なのは、重要な文献を漏れなく見つけることです。その

ためには、「文献を検索すること」と「文献を入手すること」を別の段階として考える必要があります。

まずは必要な文献を見つける。その後で入手方法を考える。この順番を意識して、先行研究調査を進めていきましょう。

本講習会の構成

1. 二つの予備知識
2. シチュエーション1：参考文献リストの情報から
3. シチュエーション2：論文データベース検索結果から
4. ILLサービス
5. 自宅や出張先からフルテキストへ補遺.

5

講習会の構成は、このような形になっています。

参考文献リストの書誌情報をもとに文献の入手を検討する場合と、データベースの検索結果から文献の入手を検討する場合という2つのシチュエーションから、論文フルテキスト入手の実際の手順を紹介していきます。

なお、これら2つのシチュエーションは、「日本語文献探索のキソ」講習会で紹介する、「芋づる式探索」（引用関係をたどって文献を探す方法）と「データベースでの探索」という、文献探索の2つの方法に対応しています。これらの文献探索方法について詳しく知りたい方は、「日本語文献探索のキソ」講習会のe-learning教材もぜひご覧ください。

1.二つの予備知識

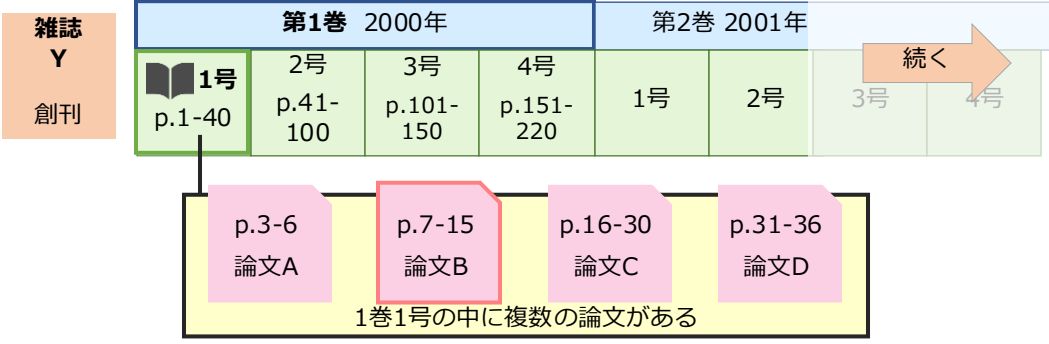


まずは、学術論文を入手する際に前提となる予備知識を2つご紹介します。

予備知識1：雑誌と論文の関係性

雑誌1巻(volume)の中に複数の号(number)があり、1号の中に複数の論文が入っている

論文Bは「雑誌Yの1巻1号のp.7-15に掲載されている論文」と表現できる
=論文の住所のようなもの。入手するときの大きな手掛かりになる



7

1つ目は、雑誌と論文の関係性です。

雑誌1冊、つまりひとつの号の中には、複数の論文が掲載されています。
多くの雑誌では、複数の号が「巻」という単位にまとめられます。巻数は、たい
てい1年ごとに1つ増えていきます。

特定の雑誌1冊を指すときには、「1巻1号」のように、巻と号の2つの数字を組
み合わせて表現します。
(巻のみのものや、号のみのものもあります。)

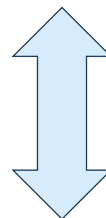
この図では、『Y』という雑誌を例にとって説明しています。
この雑誌は1年間に4回発行されているため、それぞれに1号から4号までの号数
が割り振られています。また、同じ年の間に発行されたものには同じ巻数が割り
振られます。
それぞれの号の中には複数の論文が収録されており、例えば1巻1号には4つの論
文が掲載されています。
このとき論文Bは、「雑誌Yの1巻1号の7ページから15ページに掲載されている
論文」と言うことができます。
入手したい論文が掲載されている雑誌のタイトルと巻号・ページ数は、その論文
の「住所」にあたる重要な情報ですので、文献の入手を検討する際には必ず控え
ておいてください。

予備知識2：論文入手の3つの手段

①電子ジャーナルをダウンロード

ラク・早い・安い

②大阪大学が所蔵する紙の雑誌をコピー



③ 図書館間相互貸借（ILL）サービス

複写の取寄せ、他機関への訪問利用

手間・時間・お金がかかる

★POINT

①→②→③の順番に入手可否を確認しましょう
入手の必要性に応じて、どの手段までとるか考えましょう

8

2つ目は、論文を入手するための手段に関する予備知識です。

論文のフルテキストを入手する際に利用しうる手段は、大きく分けて3つあります。

（ここでは、大阪大学で利用可能な手段を紹介します。国立国会図書館のサービスについては、この資料の「補遺」で扱っています。）

まず、電子ジャーナルからPDFやHTML形式でフルテキストを入手する方法があります。インターネット上で無料でフルテキストを入手することができるため、この方法が最もコストがかからないといえます。文献の入手を検討する際には、まずは入手したい論文が掲載されている雑誌の電子版を利用できないか確認しましょう。

（インターネット上で誰でも読むことができるオープンアクセス雑誌のほか、大阪大学で契約しており、個人IDによる認証を経て読むことができる電子ジャーナルも多数あります。）

電子ジャーナルを利用することができなければ、2番目の手段として、紙の雑誌が大阪大学に所蔵されていないかを確認しましょう。所蔵されていれば、雑誌の現物から読みたい論文をコピーすることができます。

紙の雑誌も所蔵されていない場合は、3番目の手段を検討しましょう。大学図書館は全国的なネットワークを形成しており、このネットワークを通じて他大学の

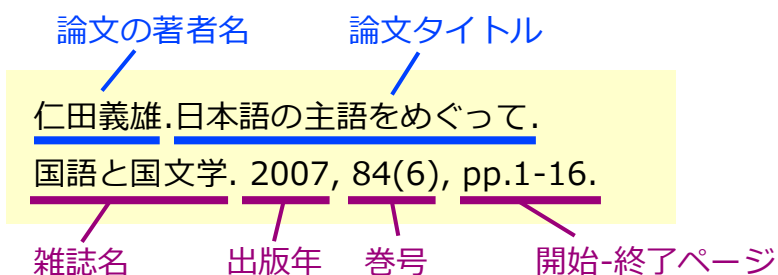
資料を取り寄せたり、他大学の図書館を訪問したりすることができます。これを図書館間相互貸借（ILL）サービスと呼びます。

2.シチュエーション1： 参考文献リストの情報から



それでは、2つの予備知識を頭に入れたところで、本題に入ります。
1つ目のシチュエーションとして、図書や雑誌論文の最後にある「参考文献リスト」の書誌情報から、論文のフルテキストを入手する方法を解説します。

必要な情報を読み取る：日本語論文の例



参考文献リストの書き方は分野や掲載雑誌などによってさまざま
※上記の例は、「[科学技術情報流通技術基準 \(SIST\)](#)」に則っている

基本的には、前半が論文に関する情報 / 後半が雑誌に関する情報

※出版年は著者名の直後にくることが多い

10

図書や雑誌論文の最後に掲載されている参考文献リストは、文献を特定するために必要な情報（書誌情報）が、一定の決まった形式で記載されています。
リストの書き方は分野や雑誌によってさまざまですが、基本的には、前半が論文に関する情報、後半がその論文が掲載されている雑誌に関する情報であるといえます。

スライドの例をとって説明します。

前半部分には、論文の著者名と論文タイトルが書かれています。

後半部分を見てみると、雑誌名が『国語と国文学』、出版年が2007年、収録されている巻号が84巻6号、そして論文の掲載ページが1ページから16ページ、ということが分かります。

なお、例に挙げた文献の書誌情報の書き方は、SIST（科学技術情報流通技術基準）に則っています。

必要な情報を読み取る：英語論文の例

論文の著者名(6名+a)

論文のタイトル

Astell-Burt T, Hartig T, Eckermann S, Nieuwenhuijsen M, McMunn A, Frumkin H, et al. More green, less lonely? A longitudinal cohort study.
Int J Epidemiol 2022;51(1):99-110.

雑誌名

出版年

巻号

開始-終了ページ

「雑誌名」と「巻号」を手がかりにして阪大での入手可否を確認

入手したい文献の書誌情報をメモするときは、この2つを忘れないこと

11

こちらは英語論文の例です。

英語の場合も、前半が論文に関する情報、後半がその論文が掲載されている雑誌に関する情報というところは同じです。

後半の雑誌名にご注目ください。

海外の論文の場合、このように雑誌名が省略形になっていることがあります。戸惑うかもしれませんが、落ち着いて読み取っていきましょう。

文献の言語が日本語か英語かにかかわらず、大阪大学で入手することができるかを確認するには、「雑誌名」と「巻号」の2つの情報が必要です。

入手したい論文の書誌情報をメモするときには、この2つの情報を忘れないようにしましょう。

(参考) 参考文献リストの書式

参考文献リストの書式には、いくつかの代表的なスタイルがある。

- ▶ SIST (科学技術情報流通技術基準)
- ▶ APAスタイル
- ▶ MLAスタイル
- ▶ シカゴスタイル

[Purdue OWL](#) (Purdue University)

「[参考文献の書き方](#)」 (外国学図書館LSパスファインダー)

12

参考文献リストの書き方に関する参考情報です。

さきほどの例では、SISTに則った文献情報を参考にしました。

参考文献リストの書き方として代表的なものには、SISTのほかに、アメリカ心理学会 (APA)のAPAスタイル、現代言語学会 (MLA) のMLAスタイル、シカゴ大学のシカゴスタイルがあります。

より詳しく知りたい方は、スライドに掲載しているリンク先を参照してください。

Purdue OWLはPurdue大学が運営する、アカデミックライティングに関する情報をまとめたサイトです。APA、MLA、シカゴの各スタイルに従った参考文献の書き方が豊富な例を使って解説されています。

「参考文献の書き方」は、外国学図書館のラーニング・サポーター (大学院生) が作成したパスファインダーです。参考文献の書き方についてコンパクトに解説されており、概要をつかむには最適ですので、こちらもぜひご覧ください。

阪大OPACで論文を探す

Astell-Burt T, Hartig T, Eckermann S, Nieuwenhuijsen M, McMunn A, Frumkin H, et al. More green, less lonely? A longitudinal cohort study. Int J Epidemiol 2022;51(1):99-110.

①

②

③

【検索の手順】

- ①ジャーナルのタイトルで検索する（論文タイトルでは検索できません）
- ②該当する巻号を利用することができるか確認する
- ③該当する論文を利用することができるか確認する

13

それでは、さきほど例に示した英語論文の本文を、阪大のOPACを使って入手してみましょう。

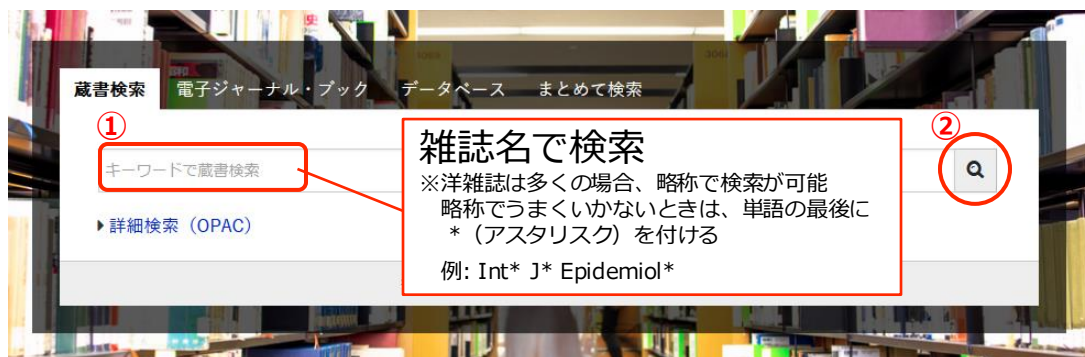
検索の手順は、スライドに示した番号の通りです。

- ①まず、雑誌のタイトルで検索し、その雑誌が大阪大学で利用可能か確認する。
- ②その雑誌が利用可能である場合には、読みたい論文が掲載されている巻号が利用可能か確認する。
- ③目当ての巻号も利用可能である場合には、読みたい論文が利用可能か確認する。という手順を踏むこととなります。

① ジャーナルのタイトルで検索する

図書館Webサイト <https://www.library.osaka-u.ac.jp/>

トップページ > 蔵書検索 (OPAC) から検索



14

それではこの英語論文について、阪大で使えるかどうか確認してみましょう。電子ジャーナルも紙の雑誌も、図書館の蔵書検索システムであるOPACで検索することができます。

まずはOPACで、探している雑誌が阪大にあるかどうかを確認しましょう。

ご存じの方も多いとは思いますが、OPACは図書館Webサイト

(<https://www.library.osaka-u.ac.jp/>) のトップページから利用できます。

「蔵書検索」タブがデフォルトで開いていますので、こちらの検索窓から検索してください。(もちろん、初めからOPACを利用いただいてもかまいません。)

ここで重要なのが、検索窓に「雑誌名」を入力して検索することです。OPACには論文単位ではなく雑誌単位で書誌情報が登録されているため、論文のタイトルでは検索することができません。

例にあげた雑誌名は「Int J Epidemiol」です。海外の雑誌は多くの場合、略称のまま検索できますが、うまく行かない時は、各単語のあとにアスタリスク「*」をつけるとよりヒットしやすくなります。今回は、「Int* J* Epidemiol*」と入力して検索します。

①ジャーナルのタイトルで検索する

□ 1.
雑誌



紙の雑誌

International journal of epidemiology

1 (1972)-. - London : Oxford University Press , 1972-

書誌ID=3001062890 NCID=AA00680294

雑誌名をクリックすると
詳細画面へ移動

	所蔵巻号	年次	請求記号	コメント
	24-25	1995-1996		
生命図	4-31	1975-2002		

所蔵件数: 2件

□ 2.
電子ジャーナル



電子ジャーナル

International Journal of Epidemiology

: Oxford University Press

書誌ID=OJ00307667

そうすると、このように検索結果が表示されました。探している雑誌は International journal of epidemiology で間違いなさそうです。
「雑誌」と「電子ジャーナル」の2つの結果がありますね。アイコンの色と形が違うので、見分けがつくかと思います。ここで「雑誌」と表示されているものが、紙の雑誌です。

電子ジャーナルからファイルをダウンロードすることができれば一番楽なので、まずは電子ジャーナルを見てみましょう。雑誌名をクリックして、詳細画面へ移ります。

②該当する巻号が利用できるか確認する

OPAC詳細画面（電子ジャーナル）

この情報を出力する

- 印刷
- メール送信
- ファイル出力
- EndNote Online(RIS)出力
- Mendeley出力

このページのURL

<https://opac.library.osaka-u.ac.jp/opac>

QRコード

<電子ジャーナル>
International Journal of Epidemiology
出版情報 : Oxford University Press
書誌ID : 0300307667
冊子体

International journal of epidemiology

所蔵情報を非表示

所蔵巻号一覧

刊行年で絞り込みます。また、巻号の名称で前方一致検索ができます（全角/半角、。）

年次 全て表示 巻号 絞り込み

巻号	巻号	所蔵場所	年次/刊行日
e-Journal	Available from 1996-01-01 to Present.	オンライン	オンライン
e-Journal	Available from 1996-01-01 to 2003-12-31.	オンライン	オンライン
e-Journal	Available from 1972-01-01 to 1995-12-31.	オンライン	オンライン

書誌詳細を非表示

International Journal of Epidemiology

②読みたい巻号が入っていれば、「e-Journal」ボタンからアクセス

①読みたい論文の巻号や出版年が利用可能範囲に入っているかを確認

16

こちらが電子ジャーナルの詳細画面です。

この画面でチェックしてほしいのが、所蔵情報の欄に表示される表の、「巻号」の欄です。

というのは、大阪大学でその雑誌の創刊号から最新号までの全ての号が利用できるとは限らないからです。

読みたい論文の載っている巻号やその出版年が、この範囲に入っているか確認しましょう。

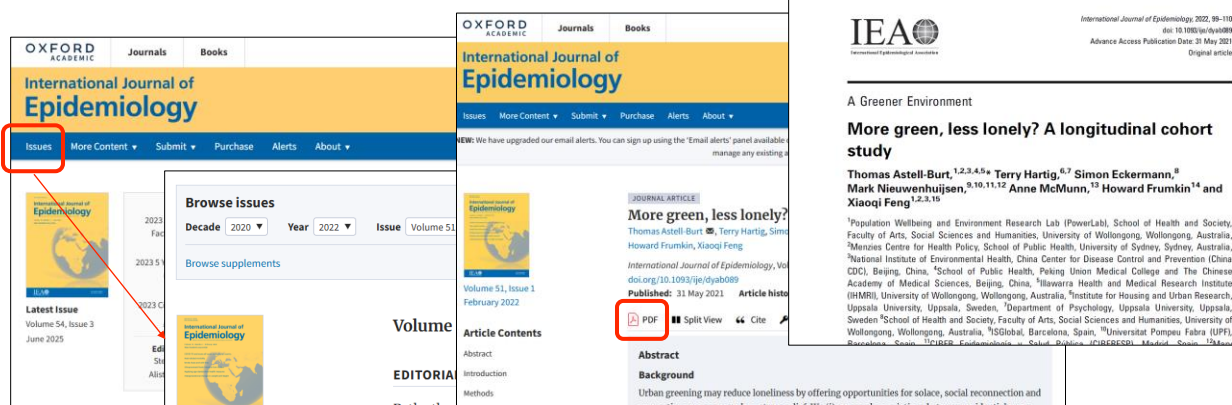
この雑誌のように複数のアクセス先がある場合がありますが、どれか1つにでも含まれていれば、読みたい論文を利用することができます。

探している論文は、2022年に出版された51巻1号に掲載されています。

一番上のアクセス先で利用できる巻号が「Available from 1996-01-01 to Present」とあるので、利用可能な範囲に含まれていることが分かります。

探している論文の掲載巻号が利用できることが分かったら、該当するアクセス先へ「e-Journal」ボタンからアクセスしてください。

③該当する論文が利用できるか確認する



③巻号リストや記事検索で論文を探す

アクセス先は、論文を公開しているページであることもあれば、論文を収録している電子ジャーナルのWebサイトであることもあります。電子ジャーナルのWebサイトのトップページが開いたら、巻号リストや記事検索から読みたい論文を探します。

今回は巻号リストから探してみましょう。

メニューバーから「Issues」をクリックすると、「Browse Issues」の欄が出てきます。

該当する年と巻号（今回は2022年の51巻1号）を選択して、読みたい論文タイトルをクリックします。

PDFをダウンロードすれば、フルテキストを入手することがきます。

以上がフルテキストを入手するための一つ目の手段である、電子ジャーナルをダウンロードする手順です。

紙の雑誌を取りに行って論文を読む場合

OPAC詳細画面（紙の雑誌）

① どの図書館にあるか確認する

② 「所蔵巻号」をクリックし、それぞれの号の配架場所を確認する
※号によって置き場所が違うこともある

出力	配架場所	所蔵巻号	年次	請求記号	コメント	複写取寄	公費eDOS
Mendeley出力	共統計	24-25	1995-1996				
	生命図	4-31	1975-2002				

巻号	配架場所	年次/特 行目	受入日	資料番号	請求記号	状態	刊行誌記	コメント
31(4-6)	生命図	2002-		44100669437				
31(1-3)	生命図	2002-		44100669429				
30(5-6), Suppl.1	生命図	2001-		44100630183				
30(3-4)	生命図	2001-		44100630175				
30(1-2)	生命図	2001-		44100630167				
29(4-6)	生命図	2000-		441005778				

18

次に二つ目の手段をご紹介します。

電子ジャーナルが利用できないときは、紙の雑誌を大阪大学で利用できないかを確認しましょう。

OPAC検索結果の一覧画面から、「雑誌」のアイコンが表示されている方のタイトルをクリックします。

表示された詳細画面で、まず、紙の雑誌がどの図書館に所蔵されているかを確認します。「配架場所」の欄をチェックすると、「共統計」（研究室）と、「生命図」（吹田キャンパスの生命科学図書館）に紙の雑誌が所蔵されていることが分かります。

次に、「所蔵巻号」の欄で、読みたい論文が掲載されている巻号が所蔵されているかを確認します。

今回探している論文が掲載されているのは51巻でしたので、残念ながら大阪大学では読みたい論文が掲載されている紙の巻号を利用することはできないことが分かります。

以下では、利用したい巻号が所蔵されていた場合について解説します。

たとえば、この雑誌の30巻が利用したい場合、生命科学図書館の所蔵資料を利用することになります。

「生命図」の「所蔵巻号」欄をのリンクをクリックすると、画面の下方に詳細な

巻号リストが表示されます。このリストの「配架場所」の欄から、読みたい号がどこに置いてあるのかを確認してください。（OPAC上の配架場所が館内のどこにあるのか分からない場合は、図書館職員にお気軽にお尋ねください。）

雑誌によっては、巻号によって同じ図書館内でも配架場所が異なる場合がありますのでご注意ください。

配架場所を特定できたら、実際に図書館に足を運び、紙の雑誌を入手して、読みたい論文を読んだり図書館内でコピーしたりします。
雑誌の貸出については図書館によってルールが異なるため、所蔵館のルールに従ってください。

ここまでのまとめ

参考文献リストからフルテキストを入手するときは・・・

入 口：図書館Webサイトの蔵書検索（OPAC）

探し方：雑誌名で検索

OPACで電子ジャーナルと紙の雑誌をまとめて探せます



19

それでは、ここまでのまとめです。

文献入手を検討する1つ目のシチュエーションとして、参考文献リストの書誌情報をもとに論文フルテキストを入手する方法を解説しました。

読みたい論文が掲載されている雑誌のタイトルと巻号を確認し、該当する巻号を大阪大学で利用することができるかどうかを蔵書検索（OPAC）で調べることが、基本的な手順でした。

OPACでは紙の雑誌と電子ジャーナルをまとめて探すことができますので、ぜひこの方法を試してみてください。

大阪大学に所蔵がないときは・・・

探している雑誌が阪大に所蔵されていないときは、タブを切換えて
①CiNii Books、②国立国会図書館サーチでも探すことができます。



大阪大学蔵書検索 CiNii Books NDLサーチ

蔵書検索 大阪大学の蔵書(電子ブック・電子ジャーナルを含む)を検索します。大阪大学個人IDがあれば、予約・取寄ができます。

該当する資料が学内に見つかりません。別の検索語で検索するか、他のサイトで検索してください。必要な資料が学内にない場合は取り寄せを依頼してください。

大阪大学Discovery Service | カーリル | WorldCat | CiNii Research

簡易検索 詳細検索

検索条件

支援 書名(完全形) 著者名に左の語を含む 出版社・出版者

並び順: 関連度 一覧表示件数: 20

20

なお、大阪大学に読みたい雑誌が所蔵されていない場合もあります。

探している資料が大阪大学附属図書館に所蔵されていない場合は、OPACの検索画面に「該当する資料が学内に見つかりません。」という表示が出ます。そのような場合には、検索窓の上部にあるCiNii Booksや国立国会図書館サーチのタブから、同じキーワードでそれぞれのデータベースを検索することができます。

3. シチュエーション2： 論文データベース検索結果から



続いて、フルテキストの入手を検討する2つ目のシチュエーションとして、論文データベースの検索結果からフルテキストを入手する方法をみてみましょう。

本文リンクボタンをチェック

例：CiNii Research の検索結果画面



22

今回は、日本語論文を探すときによく使われるデータベース「CiNii Research」を例にとって解説します。

CiNii Researchの検索結果にはこのように、オレンジ色のリンクボタンが付いていることがあります。

例えば、右側の「機関リポジトリ」というリンクをクリックすると、論文のフルテキストが公開されているWebページに遷移することができます。

（「機関リポジトリ」とは、各研究機関が運営している学術情報を公開するためのサイトです。その研究機関で発行されている学術雑誌・紀要類の掲載論文や、その研究機関に提出された学位論文などが公開されています。）

本文リンクボタンについての注意

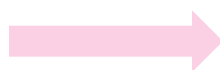
ボタンを押してリンク先に行っても、本文が読めないことがある

(例) CiNii Researchの場合

■ 本文が入手できるパターン

機関リポジトリ

のボタン



■ 本文が入手できるか分からないパターン

上記以外のボタン

リンクボタンなし



どちらの結果も
あり得る



うまく
入手できないときは
次の方法へ！

注意していただきたいのは、リンクボタンと大阪大学の所蔵状況・契約状況が必ずしも対応していないということです。

CiNii Researchに限らず、各種データベースでは論文フルテキストへのリンクボタンが表示されています。

ただ、こうしたボタンはデータベース側が機械的に表示させているもので、大阪大学の所蔵状況を参照しているわけではありません。そのため、「機関リポジトリ」以外のリンクボタンをクリックした場合に、フルテキストが直ちには利用できないことがあります。

また、大阪大学で紙の雑誌を所蔵していたり、電子ジャーナルを契約したりして利用することができるものにリンクボタンが付いていないこともあります。

もっとも、データベースの検索結果から、大阪大学の所蔵・契約状況を確認することができないわけではありません。

データベースの検索結果に表示されるリンクボタンをクリックしてもフルテキストを入手することができなかった場合には、すぐに諦めてしまわずに、次に説明する方法を試してみてください。

電子 or 紙の雑誌が阪大で使えるか確認

検索結果に表示されている以下のボタンをクリック 例

CiNii Research、JDreamIII、
Web of Science、Scopus、MEDLINE etc.



CAS SciFinder
Discovery Platform for Academics

Full Text ▾



UOsaka Full Text Finder

Google Scholar

[PDF] nii.ac.jp
Full-Text@大阪大学/Uosaka

設定 > 図書館リンク
"大阪大学"で検索
Full-Text@大阪大学/Uosaka を選択

PubMed

阪大専用入口から入る必要がある
[生命科学図書館のWebサイト](#)からアクセス



24

大阪大学のキャンパス内で学内ネットワーク (odins-1x) に接続するか、キャンパス外から大阪大学個人IDによる認証を経てCiNii Researchを利用していると、検索結果一覧に「大阪大学で本文を探す」というリンクボタンが、各論文の詳細画面の下方に「UOsaka」というアイコンが表示されます。

機関リポジトリなどで論文が公開されていない場合に、大阪大学でその論文の本文を入手することができるかを確認するために使うのが、この「UOsaka」マークのアイコンです。

CiNii Research以外にも、多くのデータベースでこの「UOsaka」アイコンが表示されます。このボタンをクリックすることで、電子ジャーナルや紙の雑誌が阪大で使えるかどうかをチェックすることができます。

なお、一部のデータベースではボタンの見た目が異なっていたり、ボタンではなくテキストリンク形式だったりするのでご注意ください。

下記のリンク先の論文を例にとってみます。
<https://cir.nii.ac.jp/crid/1521980704613472512>

こちらの論文は、CiNii Researchに表示されるのリンクボタンをクリックしても論文フルテキストが入手できないものです。

ところが、「UOsaka」アイコンをクリックすると、フルテキストへのリンクが

表示されます。つまり、大阪大学で契約している電子ジャーナルでフルテキストを利用できる論文なのです。

こういったケースが多々ありますので、データベースの検索結果に表示されるリンクボタンからフルテキストを入手することができない場合には、念のために「UOsaka」のアイコンもクリックして確認するようにしてください。

電子 or 紙の雑誌が阪大で使えるか確認

 いちようマーク等を押すとこの画面に



【Web上でフルテキストにアクセスする】
電子ジャーナル（契約 or フリー公開）があればリンクが表示される
※リンクの横に表示されている利用可能範囲に注意
例：1975-01-01 - 現在

【大阪大学に冊子版があるか探す】
リンクをクリックすると
阪大OPACを検索してくれる

【学外から文献を取り寄せる】
電子ジャーナルも紙の雑誌も無いときは
「ILLサービス」の利用を検討する

25

「UOsaka」アイコンをクリックすると、「Full Text Finder」という画面に進みます。この画面にどのような情報がまとめられているのかを解説します。

画面は大きく5つの部分に分かれています。そのうち、特に注目していただきたい部分は3つあります。

1つ目は「Web上でフルテキストにアクセスする」という部分です。ここでは、電子ジャーナルを利用できるかどうかを確認することができます。リンクの横に表示されている利用可能範囲に含まれている巻号は、フルテキストを入手することができます。

2つ目は、「大阪大学に冊子版があるか探す」の部分です。利用できる電子ジャーナルがない場合は、この部分で大阪大学で利用可能な紙の雑誌を確認してください。リンクをクリックすると、大阪大学の蔵書検索（OPAC）画面に移動します。探している雑誌がヒットしたら、雑誌の詳細画面を開きます。その後はすでに説明した通り、「配架場所」と「所蔵巻号」欄をチェックして、読みたい論文が載っている巻号を所蔵しているかどうかを確認してください。

3つ目は、「学外から文献を取り寄せる」の部分です。大阪大学で利用できる紙の雑誌もない場合には、他大学から文献を取り寄せることを検討することになります。

ます。

このサービスは「ILLサービス」と呼ばれています。ILLサービスについては、後で詳しく解説します。

(参考) データベースへのアクセス方法

図書館Webサイトで「データベース」のタブをクリック



26

なお、大阪大学で契約しているデータベースには、図書館Webサイトからアクセスすることができます。また、契約データベースをまとめたページ (<https://www.library.osaka-u.ac.jp/resource/database/dblist/>) も図書館Webサイトに掲載しております。

ここでは、データベースへのアクセス方法をご紹介します。
図書館Webサイトのトップページには、OPACの検索窓がデフォルトで表示されています。こちらの検索窓の上にあるいくつかのタブのうち、「データベース」のタブをクリックすると、データベースの検索画面に切り替わります。

この画面には、よく使われるデータベースをまとめたプルダウンメニューや、データベースの一覧ページへのリンクがまとめられています。

ここまでのまとめ

データベースの検索結果からフルテキストを入手するときは・・・

① 検索結果の本文リンクボタンをクリック

本文リンクが無いとき、リンク先で読めないときは、

② アイコンをクリック

電子ジャーナルと紙の雑誌をまとめて探せます



27

それでは、ここまでのまとめです。

文献入手を検討する2つ目のシチュエーションとして、論文データベースの検索結果からフルテキストを入手する方法を、CiNii Researchを例にとって紹介しました。

検索結果に表示されるリンクボタンのリンク先でフルテキストを入手することができる場合と、できない場合があります。

リンクボタンのリンク先でフルテキストを入手することができない場合には、

「UOsaka」アイコンをクリックすると表示される「Full Text Finder」で、大阪大学で所蔵・契約している電子ジャーナルや紙の雑誌が利用できるかどうかを確認してください。

4. ILLサービス



ここでは、ILLサービスについてご紹介します。

ILLサービスは、大阪大学で利用することができる電子ジャーナルや紙の雑誌がない場合に、他大学から利用したい文献を取り寄せたり、他大学に訪問して利用したい文献を利用したりすることができるサービスです。

取り寄せる際の送料や訪問する際の交通費などがかかりますが、大阪大学で利用できない資料を利用することができる便利なサービスですので、ぜひ活用してください。

ILLサービスとは

Inter Library Loanの略称

図書館同士のネットワークで他の図書館の資料を利用するしくみ

阪大の他キャンパスの図書館、他大学の図書館、
国立国会図書館、海外の図書館 など

※公共図書館についてはお近くの公共図書館にご相談ください

申込は附属図書館Webサイトから

受取場所は、総合図書館ではメインカウンター（A棟2階）

※受付時間は平日9時～17時のみ

29

ILLサービスとは、図書館のネットワークを活用して他の図書館の資料を利用する方法です。

大阪大学の各キャンパスの図書館や、他大学の図書館、国立国会図書館、それに海外の図書館も、このネットワークに入っています。

ILLサービスは、図書館Webサイトから申し込みを行うことができます。
詳しい方法を、次のスライドから説明します。

ILLサービスでできること①

1. 複写取り寄せ

コピーの取り寄せ（雑誌論文、図書の一部・・・）

有料（複写料と送料）※学内の他キャンパスからの取り寄せなら複写料のみ

2. 図書（現物）取り寄せ

図書自体を取り寄せて借りる（雑誌は取り寄せ不可）

有料（往復送料）※学内からの取り寄せはOPACの  ボタンから（無料）



ILL申込みは、Webサービスの
「文献複写・現物貸借申込み」から

30

ILLサービスでは、文献の取り寄せと他大学への訪問を行うことができます。文献の取り寄せには、コピーを取り寄せるものと、一冊まるまるを取り寄せるものがあります。

複写取り寄せの主な対象は、雑誌論文です。

他の大学からの取り寄せの場合、取り寄せ先の大学によって料金は異なりますが、国内の大学の場合は見開き1枚のコピーがだいたい40から50円程度、それに加えて送料がかかります。ページ数にもよりますが、1本の論文を1000円以下で入手できることが多いです。申込後、だいたい3日から1週間程度で阪大に到着します。

他大学だけではなく、大阪大学の別のキャンパスの図書館からの取り寄せもできます。こちらは送料はかかりませんし、複写料金も見開き1枚で25円と、比較的安く手に入ります。

学内バスに乗って他のキャンパスに行くのが難しいときは、この方法を検討してください。

図書の現物取り寄せは、他の大学から図書を一冊まるごと取り寄せるサービスです。往復の送料として、資料のサイズ・重量や郵送距離にもよりますが、1200～1500円程度がかかります。

なお、現物取り寄せの対象となるのは図書に限られます。雑誌は特定の巻号を一

冊まるごと取り寄せることができませんので、ご承知おきください。

どちらの場合でも、附属図書館Webサイト右上の「Webサービス」タブの「文献複写・現物貸借申込み」メニューから申し込むことができます。

複写取り寄せの便利な申込方法

Full Text Finder から

記事
スペイン・バスク自治州サン・セバスティアン
発行済み: 日本観光研究学会全国大会学術論文集・第10号
著者: 小嶋 博正
ISSN: 2436-617X
お探しのものが見つかりませんか? [条件を指定して検索する](#)

大阪大学で利用できるか探す
Web上でフルテキストにアクセスする (学内者限定) Access the Full Text (UOsaka members only)
利用できる電子ジャーナル・電子ブックは見つかりませんでした。(図書館Webサイト「資料の調べ方ガイド」はこちら)
No E-journals / E-books Found Available. (Need help? UOsaka Libraries "Research Support")

無料で利用できるフルテキストの検索を探す Search Free Full Text
Google Scholar を論文タイトルで検索
Google Scholar を著者名で検索 Search
IRDBを論文タイトルで検索 Search IRDB
IRDBを著者名で検索 Search IRDB by Author
CiNii Researchを論文タイトルで検索 Search CiNii Research by the Article Title
CiNii Researchを著者名で検索 Search CiNii Research by the Author

学外から文献を取り寄せる(学内者限定) Use the ILL Service (UOsaka members only)
学外からの文献取り寄せを申し込む (有料) Apply for the ILL Service (Paid)

① 図書館Webサイト「資料を取り寄せる」
② UOsaka Libraries Website "Requesting Materials and copies"

[UOsaka](#) をクリックするとこの画面が表示

ここから申し込みすると論文情報が自動入力される

蔵書検索 (OPAC) から

<雑誌>
Annual review of pathology : mechanisms of disease

巻次年月次 Vol. 1 (2006)-v. 11 (2016)
出版情報 Palo Alto, Calif. : Annual Reviews, c2006-c2016
大きさ v. : ill. (some col.) ; 24 cm
本文言語 英語
書誌ID 3002111254
NCID AA12061212
電子ブック・電子ジャーナル [Annual Review of Pathology](#)

電子版が見つかりました。利用条件を確認 → [UOsaka](#)

所蔵情報を非表示

配架場所	所蔵番号	年次	請求記号	コメント	複写取寄	公費eDDS
生命図	1-7,9,11	2006-2016		書架:25-07	複写取寄	公費eDDS

学内の他の図書館から取り寄せる場合は、ここから申し込み

31

図書館Webサービス以外にも、「Full Text Finder」とOPACの書誌詳細画面から複写取り寄せを申し込むことができます。

「Full Text Finder」は、CiNii Researchなどの論文データベースに表示される「UOsaka」アイコンから遷移する、フルテキストを入手するために利用することができるオプションをまとめた画面です。データベースの検索結果からフルテキストを入手する方法を説明する際にも登場しました。

「Full Text Finder」画面の下方に、「学外から文献を取り寄せる」という項目があります。ここからILLによる文献の取り寄せを申し込むことができます。この経路でILLを申し込むと、検索した論文の情報が申込フォームに自動で入力されるので、申し込み時に文献情報を入力する手間を省くことができます。

OPACの書誌詳細画面には、所蔵情報の表に「複写取寄」の欄があります。学内の他の図書館から文献の複写を取り寄せたいときには、雑誌の書誌詳細画面の「所蔵情報」欄にある「複写取寄」ボタンをクリックすると、ILLを申し込むことができます。

ILLサービスでできること②

3. 訪問利用

- ・直接、資料を所蔵している図書館・研究機関に行く
- ・他機関への訪問には、阪大図書館からの紹介が必要
- ・利用希望日の5日前（土曜・日曜・祝日を除く）までに
各図書館カウンター または [紹介状発行依頼フォーム](#) にご相談ください
 - ※貴重資料の場合は早めに（2週間前までを目途に）
 - ※総合図書館ではB棟2階の参考調査カウンターが担当

★関西大学との相互利用協定

関西大学（ミューズ大学図書館を除く）は予約不要

学生は学生証 / 教職員は教職員証または大阪大学附属図書館利用者票の提示だけで利用できる

[※常勤教職員、大学院生、学部学生が対象](#)

[非常勤の先生、研究生の方などは訪問利用の手続きが必要](#)

32

訪問利用は、資料を所蔵している大学図書館や研究機関に直接訪問して、利用したい資料を利用させてもらうものです。

例えば、取り寄せることのできない辞書や事典類を見たいときや、シリーズものの資料をまとめて調査したいときなどに有効な手段です。

訪問利用にあたっては、附属図書館が訪問先の図書館と申込者の方の仲介をします。

事前に予約がなければ訪問することができない大学図書館がほとんどですので、他大学の図書館への訪問を希望される場合は、できるだけ日程に余裕をもって附属図書館に申し込んでください。

訪問利用は、利用希望日の5日前までに、図書館のカウンターか、Webサイトの紹介状発行依頼フォームからお申込みください。

訪問先の図書館とのやりとりに時間を要しますので、日程に余裕を持ってご相談ください。

利用を希望する資料が貴重資料の場合は、手続きにさらに時間がかかることが多いですので、できるだけ早めにご相談ください。

総合図書館では、B棟2階の参考調査カウンターでご相談を受け付けております。

なお、大阪大学は関西大学図書館と協定を結んでいるため、大阪大学の正規の学生・教職員は、訪問利用の手続きを経ずに関西大学図書館を利用することができます。

ます。

ただし、貴重図書は事前の利用予約が必要です。訪問利用をお申込みいただくことになります。

所蔵先の確認方法：CiNii Books

CiNii 日本の論文をさがす 大学図書館の本をさがす 日本の博士論文をさがす 大蔵

<https://ci.nii.ac.jp/books/>

アマゾン産業研究所月報

アマゾン産業研究所
アマゾン サンギョウ ケンキュウ ジョ

書誌事項

アマゾン産業研究所月報
アマゾン産業研究所
1 (昭和6)-
| タイトル読み アマゾン サンギョウ ケンキュウ ジョ ゲッポウ

大学図書館所蔵 11件 / 全11件

地域の絞り込み

すべての地域 ▼ すべての図書館 ▼ ☐ OPACリンクあり

大分大学 経済学部 教育研究支援室 1931-1942 1,2(1-8,10-12),3(1-4),7(5-12),8(1-4,6-12),9(1-6,8-9,11-12),10,11(1-11),12(2-6)	OPAC
岐阜大学 図書館 同社会 1931-1933 1(1-5),2(1-2,5-8,10-11),3(2,5)	OPAC
神戸市外国語大学 学術情報センター 1934-1942 P60-003 4(10,12),6(1-2,4-10,12),7(1-2,7-8,10-12),8-11,12(1-7)	OPAC
神戸大学 附属図書館 経済経営研究所図書館 同書 1931-1942 25-12-24 1-12,20,22-25,27,40-76,78-92,98-99,102-106,108-126,130-132	OPAC

33

訪問利用の行き先を検討する際には、CiNii Booksで全国の大学図書館の所蔵状況を横断的に検索することができます。

地域や都道府県での絞り込みもできるので、大阪や京都の大学図書館だけに限定して探す、といったこともできます。

さらに詳細な情報を確認したいときは、右側の「OPAC」をクリックすると各大学図書館OPACの書誌詳細画面を見ることができます。

ご自分で調べ方が分からない場合は、図書館のカウンターにきていただけましたら、図書館職員が一緒にお調べします。

CiNii Booksで見つからない場合でも、所蔵館が他に見つかる場合もありますので、図書館職員にぜひご相談ください。

5.自宅や出張先から フルテキストへ



ここでは、キャンパス外（ご自宅や出先など）から大阪大学が契約しているデータベースや電子ジャーナルを利用する方法を説明します。

キャンパス内とキャンパス外の違い

キャンパス内

研究室 / D3センター / 図書館等のPC を使っているとき

大阪大学のWi-Fi (odins-1x) に接続しているとき

→ここまで説明した操作方法でOK

キャンパス外

[ご自宅や出張先にいるとき](#)

→フルテキストを手に入れる場合、**別途操作が必要**

35

電子ジャーナルやデータベースの利用方法は、キャンパス内とキャンパス外で少し異なります。

キャンパス内とは、大阪大学の学内ネットワークにつながった状態をいいます。研究室、D3センター、図書館などにある有線接続のパソコンを使っている場合や、ご自分のパソコンやタブレットを学内Wi-Fi (odins-1x) に接続している場合が、これに該当します。

キャンパス内では、IPアドレスによって自動で認証が行われますので、特別な認証操作を必要とせずに電子ジャーナルやデータベースを利用することができます。

キャンパス外から電子ジャーナルやデータベースを利用する際には、大阪大学個人IDによる認証操作が必要になります。

キャンパス外：OPACから①

蔵書検索（OPAC）⇒ 各ジャーナルの画面 ※ここまではキャンパス外からでも同じ表示

The screenshot shows the OPAC interface for 'Physics Letters A'. On the left, there is a sidebar with options like '印刷' (Print), 'メール送信' (Email), 'ファイル出力' (File output), 'EndNote Online(RIS)出力' (EndNote Online(RIS) output), and 'Mendeley出力' (Mendeley output). The main content area displays the journal's title, publisher (North Holland), and ISSN (030287488). A red arrow points to the 'eJournal' link in the '見る' (View) section. On the right, there is a login section for '大阪大学 全学 IT 認証基盤サービス' (Osaka University All-University IT Authentication Platform Service) with fields for '大阪大学個人ID' (Osaka University Personal ID) and 'パスワード' (Password), and a 'ログイン' (Login) button.

大阪大学 全学 IT 認証基盤サービス

ログイン

大阪大学個人ID :

パスワード :

ログイン

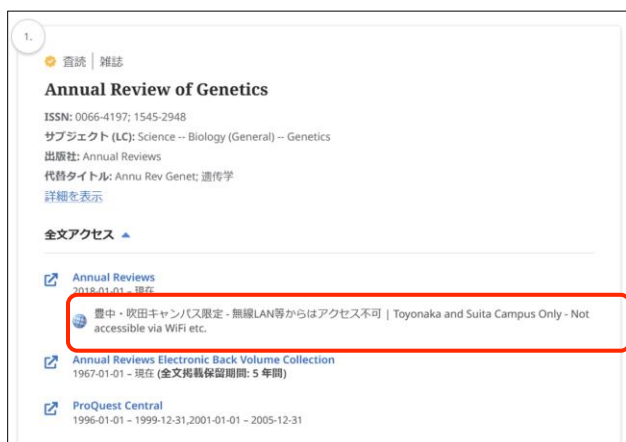
リンクをクリックすると認証画面へ
⇒大阪大学個人IDと
パスワードでログイン

36

キャンパス外でOPACから電子ジャーナルにアクセスする場合は、「e-Journal」ボタンをクリックすると認証画面が開きます。
学生の皆さんは、KOANにログインするときに使う大阪大学個人IDとパスワードを入力してログインしてください。

キャンパス外：OPACから②

注意：キャンパス外からはアクセスできないタイトルもある



豊中・吹田キャンパスの
ネットワークからアクセス可能

37

なお、一部の電子ジャーナルについては、キャンパス外から利用することができませんのでご注意ください。

こうした電子ジャーナルは、OPACの書誌詳細画面に表示される「UOsaka」アイコンをクリックすると遷移する画面で、「全文アクセス」の項目に「〇〇キャンパス限定」というメッセージが表示されます。

このスライドの例では、「豊中・吹田キャンパス限定 無線LAN等からはアクセス不可」と書かれています。この電子ジャーナルは、豊中キャンパス・吹田キャンパス内の有線接続された端末からしか利用できないということです。

こうした電子ジャーナルを利用したいときに、ご自身が所属しているキャンパスが利用対象外となっている場合には、以下いずれかの方法で読みたい文献を入手していただけます。

①ILLの申し込み（この教材の「4 ILLサービス」をご参照ください）

②利用対象となっているキャンパスにある図書館の情報教育端末の利用

キャンパス外：論文データベースから

論文データベースを**使い始めるときに**阪大在籍者の認証を行う



図書館webサイト「[キャンパス外から電子リソースを使う](#)」をクリック

→キャンパス外から利用可能なデータベース一覧

→使用したいデータベースを選択し、**阪大個人ID・パスワード**で認証

※Google Scholarではキャンパス外からの認証のしくみは利用不可

38

キャンパス外からデータベースを利用する際には、図書館Webサイトのトップページに表示される「キャンパス外から電子リソースを使う」をクリックし、利用したいデータベースがキャンパス外から利用可能かを確認してください。

「キャンパス外から電子リソースを使う」をクリックすると、キャンパス外から使えるデータベースの一覧が表示されます。

この中から使いたいデータベースを選んでクリックすると、大阪大学個人IDとパスワードを使ってログインする画面が表示されます。

ログインすれば、キャンパス外であっても、キャンパス内と同様にフルテキストを利用することができるようになります。

また、データベースの検索結果に「UOsaka」アイコンが表示され、「Full Text Finder」を利用することができるようになります。

キャンパス外：GakuNinを使う

学術認証フェデレーション(GakuNin)

電子リソースを利用する大学、電子リソースを提供する機関・出版社等から構成された連合体（フェデレーション）

阪大個人IDとパスワードで認証が可能

電子リソースのほか、NII FileSender（ファイル共有システム）、しぼすけ（スケジュール調整ツール）なども利用可能

※新聞記事データベースなど、学認では利用できないデータベースもあります。

39

学外からの認証方式として、これまで説明してきた方法とは別に、学術認証フェデレーション（GakuNin）という方式もあります。

GakuNinによる認証を経て利用することができるデータベースは、以下のページにまとめられています。図書館が提供しているデータベースとは重ならないものもありますので、キャンパス外からデータベースを利用したいときにはこちらもご参照ください。

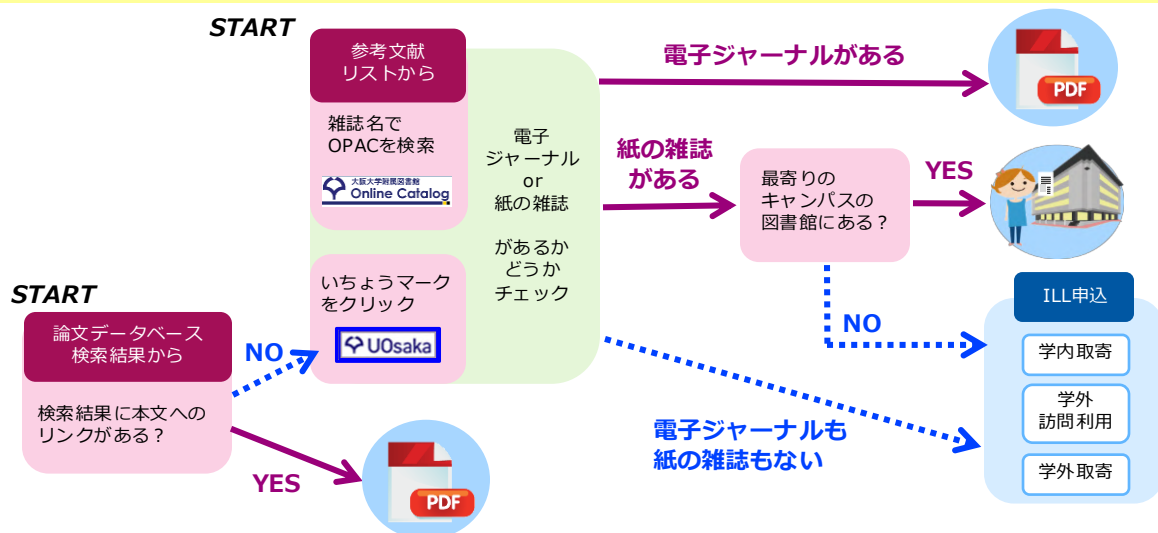
<https://web.auth.osaka-u.ac.jp/gakunin/>

まとめ



最後に、この講習のまとめです。

フルテキスト入手法



41

ここまで、論文フルテキストの入手方法を見てきました。
説明した内容をフロー図にしたものをスライドに掲げています。フルテキストを
入手するために利用可能な選択肢について、ひとつおり分かっていただけたか
と思います。

基本的には、コストが低い順に、

1. 電子ジャーナルをダウンロード
2. 阪大で所蔵している紙の雑誌をコピー
3. ILLサービス

の順番でフルテキストの入手を検討してください。

ご相談ください

総合図書館B棟2F 参考調査カウンター

- ・ 職員がお待ちしております
- ・ 平日9:00-17:00（事前予約不要）
- ・ メール・オンラインでの相談も受け付けます

大阪大学附属図書館 レファレンスデスク

https://www.library.osaka-u.ac.jp/research/reference_desk/

- ・ メール・フォーム・オンラインでの相談受付中
- ・ 附属図書館4館のレファレンス・スタッフが
随時ご相談・参考調査に応じています



レファレンス・デスク



大阪大学附属図書館

42

実際にフルテキストを探すときに操作方法が分からない、参考文献リストの書誌情報の読み取り方が分からないなどの疑問点がありましたら、ご遠慮なく総合図書館参考調査カウンターへお尋ねください。

平日の9時から17時の間、図書館職員がお待ちしております。また、メールやオンラインでの相談も受け付けています。どうぞお気軽にご利用ください。

また、大阪大学附属図書館4館では、レファレンス・スタッフが随時ご相談や調査を受け付けています。メール・フォーム・オンラインのいずれの方法でも申し込みが可能です。詳しくは、画面のQRコードから図書館Webページをご覧ください。

「フルテキスト入手法」のe-learning教材本編はここまでです。ご覧いただきありがとうございました。皆さんの学習・研究にお役立ていただければ幸いです。本編では説明することができなかった二三の文献入手方法について補遺で説明していますので、ご関心のある方はそちらも併せてご覧ください。

補遺1： 本日紹介した方法以外に 利用できるもの



補遺では、文献の入手において利用可能な方法のうち、本編では解説できなかったものを二三ご紹介します。

国立国会図書館デジタル化資料送信サービス

国内刊行された雑誌論文・雑誌記事（主に2000年以前）の入手に！

[国立国会図書館デジタルコレクション](#) で閲覧可能

公開レベルは3段階

- ① **ログインなしで閲覧可能**：いつでもどこでも利用できる
- ② **送信サービスで閲覧可能**：一部の図書館で or 個人で登録後に利用できる
個人利用者也閲覧・印刷が可能。
個人利用者の登録はWebからも申請可能。
→国立国会図書館の利用者登録（個人）について
<https://www.ndl.go.jp/jp/registration/index.html>
- ③ **国立国会図書館内限定**：国会図書館に直接行く もしくは ILLで複写を取り寄せる
一部、取り寄せ不可の資料もあり

44

一つ目は、国立国会図書館が行っているサービスです。

国立国会図書館は、日本国内で唯一の納本制度をもつ国立図書館であり、国内の出版物を網羅的に収集しています。そのため、読みたい文献が大阪大学附属図書館や近隣の公共図書館にない場合に、国立国会図書館の資料の利用を検討することができます。

国立国会図書館の資料は、その他の図書館と同様に、来館やILLによって利用することができますが、国立国会図書館独自のサービスとして、複写物を直接郵送してくれるサービス（遠隔複写サービス）と、デジタル化資料の送信サービスがあります。

ここでは、デジタル化資料の送信サービスについて掘り下げて説明します。

国立国会図書館が所蔵する資料のうち、著作権の切れたものや、絶版等で入手困難なものは、デジタル化され、「国立国会図書館デジタルコレクション」(<https://dl.ndl.go.jp/>) でデジタルデータとして公開されています。

公開レベルは3段階に分けられています。

一つ目はログインなしで閲覧可能なもので、インターネットが利用できる環境であれば、端末上でどこからでも資料を閲覧することができます。

二つ目は送信サービスで閲覧可能なものです。2023年から個人向けのサービスが始まり、国立国会図書館の利用者登録を行えば、個人の端末で利用者IDによ

る認証を経て送信対象資料を閲覧することができるようになりました。著作権法の範囲内で資料をダウンロードすることも可能です。

三つ目は館内限定公開のもので、国立国会図書館内の端末でのみ閲覧可能なものです。こうした資料を利用するためには、国立国会図書館に来館するか、ILLで資料を取り寄せることになります。

データベース収録のフルテキスト

OPACや からはたどりつけないので注意が必要

中国期刊全文数据库 (CAJ) ※CNKIに含まれるコンテンツ	中国語の学術論文データベース 阪大では、以下の分野の論文フルテキストが利用可能 1994年以降：中国語言文字、法律分野、公安 1993年以前：文史哲輯、法学分野
JapanKnowledge Lib	以下の雑誌を収録 太陽 文芸倶楽部（明治28年～大正元年） 文藝春秋（大正12年～昭和34年） 風俗画報

※分野によっては、これらのほかにもフルテキストを入手することができるデータベースがあります

45

二つ目は、論文フルテキストを収録したデータベースです。
大阪大学で利用可能なものとしては、スライドに挙げた二つのデータベースがあります。これらのデータベースには雑誌論文の本文が収録されているのですが、OPAC「UOsaka」アイコンからはたどり着くことができません。
ご自身の研究分野でこれらのデータベースに収録されている文献を利用する必要がある場合は、OPACやCiNii Research等に加えて、これらのデータベースでも文献を探してみてください。

補遺2： 論文単位のIDからの検索



続いて、論文単位で付与されたIDによる文献の検索・入手について解説します。
ここでは、代表的なIDとして、「DOI」と「PMID」を取り上げます。

DOIを使った検索方法

DOI（デジタルオブジェクト識別子）：デジタル化された学術論文や図書に付けられた固有のID

例 [10.1289/ehp.1003396](https://doi.org/10.1289/ehp.1003396) [〇〇 / ■■ という形式]

[附属図書館Webサイトトップページ](#)

→「電子ジャーナル・ブック」

→「DOIで検索」



まず、DOI（デジタルオブジェクト識別子）です。DOIとは、デジタル化された学術論文や図書に振られている固有のIDです。

参考文献リストにもこの情報が記載されていることがあります。

DOIが分かっている場合は、DOIで検索をかけることによって論文フルテキストに簡単にアクセスすることができます。

図書館Webサイトでは、DOIによる検索を行うことができます。

図書館Webサイトトップページの「電子ジャーナル・ブック」タブを開き、「DOIで検索」を選択します。

検索窓にDOIを入力して検索すると、電子ジャーナルと紙の雑誌の所蔵を確認することができます。

PubMed : PMIDを使った検索方法

PubMed 検索結果画面

The screenshot shows a PubMed search result. At the top, there is a 'Review' tab and a citation: 'Environ Health Perspect. 2012 Jan;120(1):11-8. doi: 10.1289/ehp.1003396.' Below this, it says 'Epub 2011 Sep 23.' and '雑誌名・巻号など' (Journal name, volume, etc.). The title of the article is 'Risks and benefits of consumption of Great Lakes fish'. The authors listed are Mary E Turyk, Satyendra P Bhavsar, William Bowerman, Eric Boysen, Milton Clark, Miriam Diamond, Donna Mergler, Peter Pantazopoulos, Susan Schantz, and David O Carpenter. Below the authors, there is a link to 'Affiliations + expand'. The PMID is 21947562, the PMCID is PMC3261933, and the DOI is 10.1289/ehp.1003396. There is a link to 'Free PMC article' and a red text label 'PMIDをメモする' (Remember PMID). The abstract section is titled 'Abstract' and contains the text: 'Background: Beneficial effects of fish consumption on early cognitive development and cardiovascular health have been attributed to the omega-3 fatty acids in fish and fish oils, but toxic chemicals in fish may adversely affect these health outcomes. Risk-benefit assessments of fish'.

Review > Environ Health Perspect. 2012 Jan;120(1):11-8. doi: 10.1289/ehp.1003396.
Epub 2011 Sep 23. **雑誌名・巻号など**

Risks and benefits of consumption of Great Lakes fish

Mary E Turyk¹, Satyendra P Bhavsar, William Bowerman, Eric Boysen, Milton Clark, Miriam Diamond, Donna Mergler, Peter Pantazopoulos, Susan Schantz, David O Carpenter

Affiliations **+ expand**

PMID: 21947562 | PMCID: PMC3261933 | DOI: 10.1289/ehp.1003396

Free PMC article **PMIDをメモする**

Abstract

Background: Beneficial effects of fish consumption on early cognitive development and cardiovascular health have been attributed to the omega-3 fatty acids in fish and fish oils, but toxic chemicals in fish may adversely affect these health outcomes. Risk-benefit assessments of fish

48

PMIDは、医学生物学系のデータベース「PubMed」における独自の文献IDです。スライドに掲載した図は、PubMedの書誌詳細画面の例です。画面上方に論文が掲載されている雑誌名や巻号が書かれています。その右側には先ほど説明したDOIも書かれています。PMIDは、画面中ほど画面の中ほどに記載されています。

PubMed：PMIDを使った検索方法

PMID：PubMed上の論文単位のID

[附属図書館Webサイトトップページ](#)

→ 「電子ジャーナル・ブック」 タブ

→ 「PMIDで検索」 タブ



49

PMIDによる文献検索の方法は、DOIの場合と同様です。

図書館Webサイトのトップページで「電子ジャーナル・ブック」タブを開き、「PMIDで検索」を選択します。

検索窓にPMIDを入力して検索すると、電子ジャーナルと紙の雑誌の所蔵を確認することができます。

補遺は以上です。

「フルテキスト入手法」のe-learning教材をご覧いただき、ありがとうございました。皆さんの学習・研究の一助となれば幸いです。